

都市近郊レクリエーション林の研究 (II)

宮崎市民の森における日帰りレクリエーション行動の一考察

宮崎大学農学部 中 島 能 道
 東京農業大学 塩 谷 勉
 元森林開発公社 花 崎 継 朗

1. 宮崎市民の森¹⁾

正式には「阿波岐原森林公園」と呼称される。面積30ha、昭和43年10月に設置され、宮崎市中心部より北東方へ約7.5kmの地点に所在する。園内には宮崎市東方海岸沿いの松林の一部が含まれる外、常緑広葉樹のカシ類、ヤマモモ、クス、ネズミモチなどが叢生する森林が含まれている。

本報告では宮崎市および近郊住民の、この森林公園に対する一般的な知覚構造と、そこで観察し得た日帰りレクリエーション行動様式について考察した結果とを発表する。

なお、この研究は昭和48年度文部省科学研究費(試験研究(2)、研究担当者、塩谷 勉)によってなされたものである。

2. 宮崎市・近郊住民の「市民の森」に対する日帰りレクリエーション対象地としての知覚構造

宮崎市・近郊住民を対象にして各種カテゴリー別質問紙調査を行った結果は下記のとおりであった。

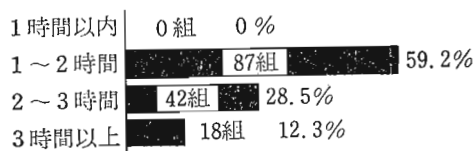
(i) 知名度：87～93%，(ii) 利用度：既知集団では58～68%，全体では52～62%，(iii) 利用頻度：1回；36～48%，2～3回；30～42%，時々・かなり・ひんぱん；16～27%，(iv) 季節別利用頻度：春；60%以上，夏；27%，秋；12% (v) 出かけようとする動機づけ：気分の良い；29～90%，気分の悪い時に気晴し；0%，(vi) 誘意性の大きい場所的条件：広々とした所；50～64%，見晴しの良い所；18～30%，樹木の多い所；6～17%，(vii) 利用する曜日：日曜・休日；65～78%，土曜；3～11%，(viii) 時間帯：正午前後；55～67%，午後；16～13%。

3. 市民の森におけるレクリエーション行動の観察と面接調査

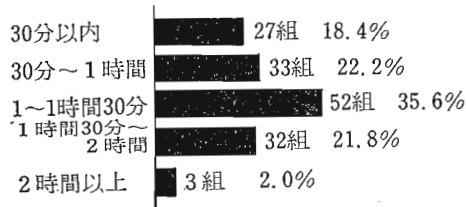
1) 季節別：冬；1日平均180～200人、保養型、休

養型および散策型が多い。滞在時間が短い。春；3月は390～520人/日，4～5月は1300～1800人/日の花見客で賑う。正午前後の時間帯に家族集団が多く、ごみの投棄量が最多量の時期である。夏；380～490人/日で昆虫採集、花菖蒲の観賞が主体。秋；町内運動会、PTA・子供会運動会、老人クラブの行事などが多い。

2) 滞在予定時間と実際時間：昭48. 10～11月の約40日間に市民の森を訪れた147組のレクリエーション集団を対象に面接・行動観察調査を試みた。まず、入園直後の利用者に対し、「あなたたちは何時間ぐらい遊んでいくつもりですか」と問い、得た反応を記録しておく。そして引続きその集団が実際には何時間経過後に立去るかを観察記録して、予定と現実とがどの程度相異なるかを調べた。結果を、図一1および図二に示す。



図一1 市民の森での滞在予定時間



図二2 市民の森で実際に滞在する時間

4. 考 察

市民の森を利用した経験者の65～74%の人々は、この公園の存在意義をプラスと誘意性を抱いているという形で認めている。

この公園は、年間 5,000人へのぼる作業員を投入して、投棄物の処理、園内の清掃、四季おりおりの草花の植え換え、樹木の新植と補植、さらに諸施設の補修などに大きな配慮がなされている。しかし、そこで展開されるレクリエーション行動は、われわれが観察し得た範囲に限れば、およそソーシャル・グループ・ワークとしてあるべき姿にほど遠い、という印象だけが残る。例えば、春季における家族集団主体のレクリエーション活動に投棄物が多く、ソーシャル・グループ・ワーカーとしての役割者不在、ならびレクリエーションに現代的な意義として付与させるべき教育・訓練的好影響を思わせるべき側面を、関連的に了解すること

ができなかった。また滞在予定時間と現実滞在時間とのかなり大きなズレは、利用者のレクリエーション活動に対する無計画性の一面をかいま見させられた思いが強い。

参 考 文 献

- 1) 宮崎市：宮崎市勢要覧，昭和47年版
- 2) 塩谷 勉，中島能道：阿波岐原森林公園における宮崎市・近郊住民の日帰りレクリエーション，宮崎市公園・緑地課，昭.49 pp. 25～34. に具体的な知覚構造の把握方法を記述。